

令和元年度 第2回東郷町地域ケア推進会議：議事録

日時	令和元年8月26日（月）14時00分～15時30分
場所	東郷町役場2階 大会議室
出席者	委員 ※敬称略、順不同 松浦誠司 医師（東名古屋東郷町医師会） 佐藤裕美 薬剤師（東郷町薬剤師会） 福島美佐子 訪問看護師（虹色訪問看護ステーション） 木村誠子 瀬戸保健所 健康支援課 近藤秀己 東郷町社会福祉協議会 土井肇 東郷町地域包括支援センター 制野司 有識者（社会福祉法人 昭徳会） 村井良則 有識者（東名古屋医師会在宅医療介護総合研究センターやまびこ） 池田寛 有識者（豊明東郷医療介護サポートセンターかけはし） 近藤正弘 東郷町民生委員児童委員連絡協議会 野々山清子 東郷町民生委員児童委員連絡協議会 柴田典義 施設サービス関係（愛厚ホーム東郷苑） 近藤修司 居宅サービス関係（エイジトピア諸輪） 松山陽二 居宅介護支援事業所（もみの木） 神脇和美 住民代表（第1号被保険者） 海老原由美 住民代表（第2号被保険者） 森本美香 こども健康部 健康推進課
欠席者	岡松猛 歯科医師（愛豊歯科医師会東郷支部）
傍聴者	1名
事務局	福祉部長 高齢者支援課長（進行） 高齢者支援課職員 4名
議題	1 委嘱状交付 2 報告事項 （1）令和元年度第1回及び第2回在宅医療・介護連携推進部会について （2）生活支援体制整備事業 東郷町地域支え合い協議体について 3 議題 （1）東郷町の地域課題の検討について （2）第7期東郷町高齢者福祉計画 中間評価（平成30年度分）について （3）第8期東郷町高齢者福祉計画策定に係るアンケート調査について
配布資料	次第 資料(1) 令和元年度第1回及び第2回在宅医療・介護連携推進部会 報告書 資料(2) 生活支援体制整備事業 東郷町地域支え合い協議体 資料(3) 東郷町の地域課題の検討について

	資料(3)－2	地域課題（意見）整理図
	資料(3)－3	地域課題意見シート（図、まとめ）
	資料(4)	第7期東郷町高齢者福祉計画 中間評価（平成30年度分）
	資料(4)－2	介護保険事業費等の推計について
	資料(5)	第7期東郷町高齢者福祉計画 重点施策について
	資料(6)	第8期東郷町高齢者福祉計画策定に係るアンケート調査について（概要）

1 委嘱状交付

2 あいさつ（委員長）

3 報告事項

（１）令和元年度第１回及び第２回在宅医療・介護連携推進部会について

事務局	資料説明。資料(1)
委員長	事務局から説明を頂いた。医療・介護フェアの開催や電子@連絡帳の利用率向上について、認知症初期集中支援チームの活動内容報告などがこの２回の間にあった。委員から補足事項はあるか。
委員	「在宅ケアを考える会」の夜間の開催については、働き方改革や、日頃から介護職の人は忙しいのに夜間に参加することは負担になるだろうということで、昼間に移動させてはどうかという提案があった。認知症初期集中支援チームのアウトカムの結果については、認知症の程度や周辺症状の程度はあまり変わっていなかったが、介護者の負担は確実に減っているという結果が出ている。また皆さんに数値として報告する機会があると思う。

（２）生活支援体制整備事業 東郷町地域支え合い協議体について

事務局	資料説明。資料(2)
委員長	事務局から説明を頂いた。昨年度までの話や、今年度以降の地域づくりの目標として、通いの場の充実や資源マップの作成、困り事についての解決を図るというような事が話されているようだ。ご意見・ご質問がないようなので、次に移る。

4 議題

（１）東郷町の地域課題の検討について

事務局	資料説明。資料(3)、(3)－２、(3)－３
委員長	事務局から説明を頂いた。この会議の主旨として、この会議の下部組織からこのような意見が上がってきた時に、私達がしっかりと整理整頓をしてイメージの共有を図り、それに対しての施策や仕組みづくりをすることが目的である。皆さんに意見を頂き、これだけの整理図ができたことに感謝し、今回は資料(3)－２の「多職種連携のネットワーク構築支援」と「地域づくりと地域の資源開発および連携」に焦点を絞って、意見を頂ければと思う。地域共生社会や地域包括ケアなどの言葉もよくでるが、そのような将来的な展開も含めてご意見を頂ければと思う。民生委員の立場で何かご意見はあるか。
委員	今、地域づくりとして、各地域の中で問題を吸い上げて皆で解決しようという方向で進んでいると思う。ただ、今この地域の中で具体的にどのような問題が出ているか、皆が互いに理解することはほとんどないと思う。個人的な問題をたまに聞くが、地域としてどういう問題が全体的にあるか、私たちも中々把握できていない。資料の中に、地域の中で疎遠になったとか、近所の人も全然知らない社

	会になってしまったとか、お互いに協力し合える体制がなくなったとかなどが書いてあるが、地域の中での問題点を具体的に捉えていくという姿勢やその問題点をどういう形で行政と住民との間で解決していくのか、その辺の流れがはっきりしていないような気がする。ただ、本当に解決する気持ちがあるのかというところが若干弱いと思うので、この辺を皆さんと共に考えて、地域の中でもそういう問題点を掘り起こしていただき、自治会など色々なところで話し合っていたら良いと思う。
委員長	ありがとうございます。資料を見る限り、地域づくりのところでは、地域との関わりを強固にしていきたい、一方でなかなかそれを支えるという意識が低いのではないかという意見がこの会議でも多く出たと思う。その中で、なかなか流れがうまく作れていないというような意見だった。その他に、例えば5年後10年後どういう計画を見据えていくべきなのかなどの考えがあれば話を頂きたい。
委員	ケアマネジャー（以下「ケアマネ」という。）の立場から言うと、地域づくりと地域の資源開発にインフォーマルサービスに一役買おうと書いてあるが、フォーマルなサービスは割と行いやすいが、インフォーマルサービスはどうもびんときていない。どのようなことが具体的にインフォーマルサービスで、どの地域ごとにあるのかという把握も必要だし、それをどのように上手く結びつけるかということが非常に課題だと思う。少し解りづらい部分ではある。
委員長	ありがとうございます。近所や地域にインフォーマルサービスの一役を買って出てほしいという話もあった。
委員	ゴミ出しのボランティアや掃除ボランティア、電球を変えるボランティアなど、ちょっとしたボランティアを地域毎に制度化したらどうかという話をした。
委員長	住民代表の立場から意見はあるか。
委員	大切・必要という言葉がたくさん出てきているが、多すぎて何をやればいいのか分からず明確になっていない。色々なボランティアがあると聞いているが、実際にどのようなボランティアが活動しているのかを知らないということが現状である。ネット社会の中でネットを見ている私たちでも分からないので、高齢者にもっと明確に解かり易いようにボランティアとかの情報が出ていると、もう少し明確化されるのではないかと思います。
委員長	ありがとうございます。どちらにしても、何か窓口のようなものがないと、なかなかうまく機能しづらく、少しばらけて動いているような状況に見えるのではないかと思います。他の行政の職員とも話しをするが、どこも回答がでず、なかなか地域と行政、地域と医療機関などを結ぶのは難しい。どこか窓口や核になるところがあって始めてそこが機能するという流れがあり、なかなか主体的に地域で動くと言うことは難しいということを率直に感じる。しかしそれを期待されているような、例えば、地域同士で解決していくことができないかという意見が出ている。なんとかひとつ、ここで柱になるものが出来てくると良いと思う。先ほどのフォーマル・インフォーマルの話でも、インフォーマルのところこそ、ちょっとした地域の課題になっている。地域で何か一役買えるような機関ができないかと

	思う。
委員	おそらくそれぞれの地域でそれぞれの内容の困り事を持っているので、これを用意すればすぐに解決ということには多分ならないと思う。ただ、個別の困り事に対応できる人とその困っている人をうまく繋ぐ又は調整をする作業を、誰かがかなり本腰を入れて行わないと、資源がそこにあっても繋がらないし分からないという状況のままだと思う。仕組み自体はあると思うが、それがうまく機能しているところとしていないところでは、何かしら理由が分かれていると思う。仕組みがあるのであれば、何を後押しすればそれが動き出してうまく活用できるかということを考えていくことが必要だと思う。
委員	この会議でも議論になっていたと思うが、有償ボランティアと無償ボランティアの交通整理は大事で、そこはある程度行政的な交通整理役が必要である。行政は忙しいと思うが、やはりやらないと広がらない。先程委員が言っていたが、行政の課題を解決する熱意や一生懸命さは分かるが、4, 5年前に作成した認知症ケアパス（以下「ケアパス」という。）も、作りっぱなしで全然見直しをされていない。忙しいと思うが、作ったあとの見直しもぜひお願いしたい。
委員長	ありがとうございます。無償ボランティアと有償ボランティアの交通整理など、何か1つ仕組みや形になれば一歩前に進むのではないかと。また、認知症ケアパスに限らず、過去に作った仕組みや、持っている資源や知的財産の振り返りを一度行い、運用ができるかどうかもう一度整理してみることも大事だと思う。本当に適応していたのか、適応していたはずなのに止まっているものなのかということをもう一度振り返る機会にもこの会議がなればと思う。ケアマネの後方支援について、先程委員から少し話があったが、地域包括支援センター（以下「包括」という。）の立場から意見をいただきたい。
委員	今、認知症の人たちをどのように地域で支えて、医療と介護をどのように継いでいくのかという事が大きな課題にある。ケース4のような、認知症の本人に病識がない、家族が情報を発信しなくて抱えてしまうというような事例が多々発生している。そういう時に認知症初期集中支援チーム（以下「支援チーム」という。）がドクターに継いでいく。支援チームや制度自体をケアマネ達はまだ上手く活用できていないという問題を感じている。実際に困った時などどんなことでも良いから支援チームに声をかけるようケアマネに声掛けをしているが中々進んでいない。昨年度は事例が3件あり、今年度は7件くらいまで伸びている。ただ実際に話があるケアマネがいつも同じであり、実はもっと潜在的なニーズがあるのではないかとと思う。
委員長	ありがとうございます。ケアマネの後方支援については、随分前からよく話が出ていたが、中々うまく解決に至っていない気がしている。医療的な側面も含めて意見をいただきたい。
委員	支援チームができてから、ケアマネから直接、私に来る相談が減っているので、サポートは少し進んでいると実感する。おそらくチームで動くことによってケアマネや包括が1人で抱えることが減ったと思うので、このまま進んで行くと良い

	と思う。１つずつのケースを繰り返すことで、こういう事は包括に相談したらいいとか、支援チームがいいとか、医師がいいとかいうことが分かると思う。ただ、ケアマネや包括に行くまでが一番の問題だと思う。
委員長	ありがとうございます。質問がないようなので、次に移る。

(2) 第7期東郷町高齢者福祉計画 中間評価（平成30年度分）について

事務局	資料説明。資料(4)、(4)－2、(5)
委員長	事務局から説明を頂いた。ご意見・ご質問はありますか。
委員	認知症施策について。例えば、ケアパスは4年位前に作られたと思うが、この地域の中ですごく画期的でよく出来たケアパスを作ったと思った。支援チームが発足して昨年度の3件という実績が、この地域で本当に必要とする件数と比べて少ないのかどうか。3件という少ないよう思えるが、元々の計画では30年度が3件であり、今年度は7件ということは、これからは恐らく支援チームが必要なケースが増えていくと予測される。この中間報告ではまだ認知症施策については目標に達してない所もあるかもしれないが、PDCAの方は序々には活用されていると判断しても良いと思う。
委員長	第8期計画にもつながる内容なので、チェックの評価がすごく大切だと感じる。この評価を間違えると当然見直しも間違えて、計画も間違っていくということになる。
委員	資料(4)－2の地域支援事業費について。介護予防・日常生活支援総合事業（以下「総合事業」という。）費が3千万円程低くなり、介護予防・訪問介護と通所リハビリテーション、通所介護が推計から増えているので、総合事業の方が減っていると思った。生活支援サポーター養成講座でそれなりに人を養成していると思うが、その理由として事務局が捉えていることがあり、令和2年度の総合事業に向けて考えていることがあれば教えてほしい。また、資料(4)のひとり歩き高齢者の見守りネットワークの充実について。毎年、ひとり歩き高齢者模擬搜索訓練を行っていたと思うが、30年度は行えていなくて残念だった。認知症のことは講演会を聞いたりこういう訓練に参加したりすると、9割近くがよく分かったと理解される人が多いので、こういうことは続けていくと良いと思った。
事務局	総合事業と介護予防給付費との関連性やその理由については、そこまで深く掘り下げてはいない。しかし、新しい総合事業ということで、住民がそこまで知らないという現状が多少あると思う。一般認識として何かあった時に最初に介護認定の申請のために、役場・包括の窓口相談に来る。基本チェックリストによる総合事業の活用方法などについて役場と包括とが連携し合って、重度化する前に総合事業を活用することでなるべく健康な状況を長く続けてもらい、その結果、介護給付費がおさえられて、本人も制度もwin-winの関係になるような状況にもっていく仕掛けが必要だと思う。しかし、今の状況では、総合事業に移る人が想定よりは少し少ないため総合事業費が下がり、逆に介護予防給付費等が上がっている現状がある。また、ひとり歩き高齢者搜索模擬訓練について、今年度は11

	月に開催する予定で計画をすすめている。委員の言うとおりに、認知症は地域でやるのが大切だと思うので、地域で経年で開催していけるような計画を作成することを検討している。地域での理解が深められるように努めていくということを考えている。
委員長	あくまでも中間評価ではあるが、今後、目標に向かって進んでいるかどうか注意深く見ていきたいと思う。先ほどの説明にはないが、防災の関係なども含まれているので、しっかりと委員にも注意して見ていただきたいと思う。また、介護予防サービス費の減額も当然目指していかなければいけないが、それはイコールサービスの低下ということではない。正しく誘導しながら、使い方、周知、広報の戦略なども立てていければと思う。

(3) 第8期東郷町高齢者福祉計画策定に係るアンケート調査について

事務局	資料説明。資料(6)
委員長	事務局から説明を頂いた。結果・有効解答率について。一般高齢者の71.8%は比較的高い数字と言われているが、70%位越すと高いという見方で良いか。
事務局	はい、解答率としては高い。他の総合計画や施策のアンケートだと50%を切る時もある。配付数にもよるが、比較的高齢者は送付すると返送していただける人が多く、解答率が高い状態となる。
委員長	今回もこの位の数字までいくことを期待する。

4 その他

制野委員長	全体を通して、意見はあるか。
委員	高齢者福祉計画を作る時に、民生委員の役割は大切になってくると思う。特に、これから各地域での支え合い運動や活動というものは、ますます重要になってくる。そのため、民生委員の役割は、ますます重大化されてくると思う。現在、民生委員は町から訪問活動用の名簿をいただいている。これは、独居の人たちから高齢者支援課へ見守り依頼の届出があった資料である。それに基づいて家庭訪問をしている。現在、町で申請書を出している人は453人いて、女性が8割、男性が2割という割合。この453人を、主任児童委員を除く約46人の民生委員で担当している。5年くらい前は1人の民生委員につき約3人くらいだったが、若い人たちが多い地域でも最近は7人くらいに増えてきた。ある地域では1人の民生委員が24人も担当していて、大体毎日訪問するということになる。その他、各地域の行事やサークルなどで民生委員は活躍している。そのため、訪問活動については、どのようにしたらもう少し平等になるのかということがこれからの民生委員の課題だと思う。最近の民生委員は男性が3分の1くらい。皆一生懸命頑張っているが、中々情報が入らない時がある又は色々と皆さんに迷惑がかかる時があると思う。地域の中で民生委員をカバーしていただけるように、皆さんからの協力をお願いする。これからも各地域の中で話題があれば、民生委員に遠慮なく報告をお願いしたい。

委員	民生委員は独居の高齢者に変な時間を削って、それぞれの立場でそれぞれの話をしている。最近私たちの地区では、独居高齢者以外にも若い人が一緒に住んでいない老老の家庭がすごく増えてきた。そうすると、二人ともそれぞれの問題を抱えていて、時間がかかることがたくさんある。そんな人について、民生委員の会議の場や行政の人に、大変困っている人が多いので何とかできないかと相談した時には、独居高齢者の名簿に老老の夫婦も入れると大変な数になってしまうため、今のところは加えられないというような話をもらった。本当にそうだと思うが、それならば、何とか老老介護のような人にもそれぞれ目を向けるような手段も必要ではないかと感じる。
委員長	ありがとうございました。その他ご意見がないようであれば、議題は以上とする。進行を事務局へ戻す。
事務局	次回は、11月8日（金）の午後2時より役場3階政策審議会室で開催するので、出席をお願いします。 本日はありがとうございました。

以上